

新制度の紹介

「県の成果情報」と「研究所が紹介する研究成果」の制度を設けました

農業研究所では、毎年、得られた多くの研究成果の中から、優れた成果を生産者の方々や関係団体などの皆さまにご活用いただけるように、「県の成果情報」制度を創設いたしました。この「県の成果情報」は、一見してどんな成果なのかをご理解いただけるように、難しいグラフ等は省き、ポンチ絵と説明の1情報 A4版2頁の情報としております。

「県の成果情報」は、毎年6月頃に行政、普及関係者などを委員とする選定会議を経て、農業研究所のホームページ (<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/>) で公開させていただきます。選定された「県の成果情報」の中で、特に有益なイチオシ情報について、新しく印刷物として皆さまにご提供する「三重県農業研究所成果情報集」に掲載し、お伝えしていきたいと考えております。

また、農業研究所の研究員が参加した各種学会や学術的会議で発表された全国の最新の研究成果の中で、県内で活用できる情報をいち早く皆さまにお伝えするため、「研究所が紹介する研究成果」の制度も創設しました。「県の成果情報」と併せて農業研究所のホームページで公開させていただきますので、ご活用下さいますようお願いいたします。

平成22年度「県の成果情報」一覧（掲載情報を除く）

環境保全型農業に貢献する高付加価値鶏ふん堆肥の製造技術
狭畦栽培大豆の収量・品質を安定させる省力摘心技術
麦・大豆の小明渠浅耕播種栽培における補助明渠の施工法
アライグマによるブドウ食害防止対策
ハンマーナイフモアによる省力台切り更新法

植物工場実証事業の取り組みについて

農業研究所では、平成23年4月から、太陽光利用型植物工場（約2,000m²）におけるトマト、イチゴ栽培の実証・展示・研修に取り組んでいます。

この植物工場は、農林水産省事業植物工場普及・拡大総合対策事業モデルハウス型植物工場実証・展示・研修事業（平成21年度補正予算）を受けて、三重官が整備した植物工場実証拠点で、つくば拠点、久留米拠点など全国5ヶ所の拠点とともに、植物工場における野菜等の生産コストを縮減できる栽培管理技術の実用化と植物工場の運営を担う人材育成を目指したものです。

事業を効果的にすすめるために、三重大学、独立行政法人研究機関、環境制御関連企業等とコンソーシアム（共同研究体）を形成し、約2,000m²のビニールハウス等で「ICTを活用した効率的な複合環境制御技術」「トマト低段密植栽培技術による高収益生産」「イチゴの最新技術を組み合わせた高収益生産」等の実証に取り組んでいます。

また、植物工場を担う人材の育成や生産者、消費者、関連企業の交流、理解増進にむけて、技術研修会、視察・見学会、各種イベントでのPR等も行っています。



栽培施設（約1,000m²、2棟）



イチゴ移動ベンチ



トマト低段密植栽培